
平成22年度予算第一特別委員会質問要旨

局別審査

平成22年3月9日

質問者（質問順）

- 1 工藤 裕一郎 委員（民 日 日）
- 2 荻野 慶子 委員（無 所 夕）
- 3 中島 文雄 委員（共 産 党）
- 4 斉藤 達也 委員（自 民 党）
- 5 関 勝則 委員（自 民 党）
- 6 飯田 助尚 委員（民 主 党）
- 7 市野 太郎 委員（民 主 党）
- 8 斉藤 伸一 委員（公 明 党）
- 9 渋谷 健 委員（自 民 党）
- 10 大桑 正貴 委員（無 所 属）

健 康 福 祉 局

局 別 審 査

1 工 藤 裕一郎 委 員 (民 ヨ コ)

1 戦没者追悼式について

- (1) 本市の戦没者追悼式の目的・意義について伺いたい。
- (2) 戦没者追悼式の参列対象者はどのような方か。
- (3) 近年の参列者の推移について伺いたい。
- (4) 参列対象者を広く市民まで広げるべきではないかと考えるが見解を伺いたい。
- (要望) 学校単位での参列も教育的な意義もあると思われるので、教育委員会とも連携して検討を進めていただくよう要望します。

2 動物の保護管理について

- (1) 犬猫の処分数の推移について伺いたい。
- (2) 犬猫の引き取りや処分を減らす取組について伺いたい。

3 特別避難場所について

- (1) 特別避難場所の概要について伺いたい。
- (2) 特別避難場所となる社会福祉施設等の施設種別と施設数について伺いたい。
- (3) 在宅要援護者の自宅から特別避難場所までの誘導の流れについて伺いたい。
- (要望) 特別避難場所と地域防災拠点、区との連絡体制について防災訓練などで確認するような取組を行っていただきたい。

4 一人暮らし高齢者等への支援活動について

- (1) 一人暮らし高齢者等の支援について、本市ではどのような取組を実施しているのか。
- (2) 事業を整理して、効果的に取り組んでいくべきと考えるが見解を伺いたい。
- (3) 地域住民による一人暮らし高齢者や障害者等への支援について、広く様々な住民が関わっていくために、どのように取り組んでいくのか。

(要望) 地域住民の活動を活性化するために、特定の住民に過重な負担を強いることなく活動が継続していけるよう、地域活動の担い手を増やす取組を全市的に行っていただきたい。

5 介護予防事業、肺炎球菌ワクチンの広報について

- (1) 高齢者の方々に対し介護予防の情報提供をどのように行っているか。
- (2) 今後、多くの高齢者に介護予防事業に参加していただくために、どのように事業や広報を進めていくのか。
- (3) 本市における肺炎球菌ワクチンの広報の取組状況について伺いたい。

6 障害者就労支援について

- (1) ふれあいショップが新規開設できていない理由について伺いたい。
- (2) ふれあいショップ事業の今後の方向性について伺いたい。
- (要望) ふれあいショップの設置は立地が重要であるが、公の施設の有効利用の観点からも、交通局の駅舎の活用など、局をまたいだ連携を進めて行っていただきたい。

7 介護支援ボランティアポイント事業について

- (1) 昨年10月に始まった介護支援ボランティアポイント事業の実施状況はどうか。
- (2) 1日200ポイント、年間8,000ポイントという上限は、どのような考え方なのか。
- (3) 協賛企業からいただいた特典には、どのようなものがあるか、また、どのように配布するのか。
- (4) 換金や寄付だけでなく、地域で使える商品券との交換なども考えられるがどうか。
- (5) 今回導入したICカードを他の福祉事業などにも活用した方がよいと考えるがどうか。

2 荻野慶子委員（無所ク）

1 産科医療の体制について

- (1) 本市の産科医療を取り巻く現状をどのように把握しているのか。
- (2) 現状を踏まえ、本市が取り組む産科医療対策はどのような内容なのか。
- (3) 助産所が本市の産科医療の現場において担っている役割をどのように考えているのか。
- (4) 本市の産科医療を支える医師をはじめとした医療人材の現状をどのように把握しているのか。
- (5) 現状を踏まえ、本市が取り組む医療人材確保対策はどのような内容なのか。
- (要望) 病院と診療所、助産所との緊急搬送を含むネットワークにより横浜で安心して生むことができるように、また、市長プロジェクトは短期間で終わることなく引き続きこの問題の検討を進めていただくことを要望します。

2 要介護高齢者の在宅サービスについて

- (1) 特別養護老人ホームに併設される等、福祉施設でのショートステイの利用状況について伺いたい。
- (2) 緊急時の対応や日常の医療的ケアが必要な方などのショートステイのスムーズな利用への対策にどのように考えているのか。
- (3) ショートステイの地域偏在の問題について、今後のショートステイ機能の整備について、どのように進めていくのか。
- (4) ショートステイに似た機能で、宿泊サービスがある小規模多機能型居宅介護事業所の整備が進まない理由と対応策についてどのように考えているのか。
- (5) 小規模多機能型居宅介護事業所整備の新たな手法である、地域ケアプラザモデル事業が目指すものは何か。
- (6) 要介護高齢者が在宅で生活していくための課題について伺いたい。

3 高齢者食事サービス事業について

- (1) 事業者が撤退した場合、利用者が継続してサービスを利用できるようにするための対応についてどのように考えているのか。
- (2) 地域包括支援センターと食事サービスとの連携の考え方についてどのように考えているのか。
- (3) 食事サービスを地域支援事業の任意事業とせず、本市独自の事業として行うべきと考えるがどうか。
- (4) 食事サービスを多くの高齢者が利用できるよう見直すべきと考えるが見解を伺いたい。
- (要望) 食事の重要さを再認識して、食事サービス事業の位置づけを含めて見直しを行うよう要望します。

4 あんしん施策について

- (1) 「将来にわたるあんしん施策」の中で、移動支援施策をプロジェクトで検討することにした理由について伺いたい。
- (2) 移動支援のプロジェクトでの、現在の移動支援施策の課題と、通学について議論されたことはどのような内容なのか。
- (3) 移動支援のプロジェクトでの議論を受けて、22年度予算案に反映した通学支援に関する事業の内容について伺いたい。
- (4) 通学支援は、時間が集中するために人材の確保が難しいと思う。そこで、支援者の確保の方法についてどのように考えているのか。
- (5) ガイドボランティア事業の通学支援については、教育委員会が実施している学校生活支援事業との連携が必要であると考え、健康福祉局としての考えを伺いたい。
- (要望) 障害児の教育を受ける権利を守るためにも、一人ひとりにあった具体的な有効な支援を行えるよう教育委員会と連携を進めていただくことを要望します。

3 中島文雄委員（共産党）

1 特別養護老人ホームの待機者問題について

- (1) 本市における特別養護老人ホームの入所待ち者数および整備計画の考え方について伺いたい。
- (2) 特別養護老人ホーム入退所指針における入所基準はどうなっているか。
- (3) 入退所指針において、要介護1・2の方も入所できるなら、整備計画にもそれらの待機者数も反映すべきではないかと考えるがどうか。
- (4) 整備計画に反映する要介護3以上という基準は取り払うべきと考えるがどうか。
- (5) 在宅だけではなく、他の施設に入所している入所待ち者も、整備計画に反映すべきではないかと考えるがどうか。
- (6) 待機している人の待機期間を把握しているのかどうか伺いたい。
- (7) 特別養護老人ホーム待機者の入所意向に沿えるよう、300床の計画を見直すべきと考えるがどうか。
- (8) 整備目標が不十分と認め改めて検討する気はないか伺いたい。

2 将来にわたるあんしん施策について

- (1) 在宅障害者手当の廃止の転換であれば、一般財源で18億円確保すべきと思うが、「将来にわたるあんしん施策」は予算の節減が目的だったのではないか。
- (2) 自立生活アシスタント事業と同様、その他の拡充事業も前年度実績を載せるべきと考えるがどうか。
- (3) 「将来にわたるあんしん施策」の推進に向けた基本姿勢について伺いたい。
- (4) 精神障害者生活支援センターの整備に、中区が予算計上されていない理由と今後の計画について伺いたい。

3 ホームレス支援事業について

- (1) ホームレスの実態に関する全国調査が実施されているが、本市における過去

3年のホームレス数の推移について伺いたい。

(2)本市の自立支援施設「はまかぜ」の入所状況を伺いたい。

(3)「はまかぜ」の退所者数と退所後の状況について伺いたい。

(4)「はまかぜ」から再び屋外生活に戻った人などの対策をどのように考えているか伺いたい。

(5)「はまかぜ」の緊急一時入所施設としての役割をどのように考えているか。

(要望)「はまかぜ」の役割に大変期待しており、緊急一時入所機能の強化を要望します。

4 齊藤達也委員（自民党）

1 食育推進計画について

- (1) 策定中の横浜市食育推進計画の進ちょく状況について伺いたい。
- (2) 「食育に関する市民意識調査」の結果について伺いたい。
- (3) 22年度の取組について伺いたい。
- (4) 横浜市食育推進計画による効果について伺いたい。

2 衛生研究所再整備について

- (1) 衛生研究所再整備基本構想の概要について伺いたい。
- (2) 衛生研究所の充実させる機能とは、具体的にどのようなものか。
- (3) 移転再整備に際しては地元住民の理解を得ることが重要と考えるが、そのためにどのように進めていくのか。
- (4) 衛生研究所の再整備にかける副市長の決意を伺いたい。
- (要望) 現在の建物は狭い状況なので、長期的な視点で、求められる機能が十分に果たせるよう、大都市横浜にふさわしい規模とするよう要望します。

3 新型インフルエンザ対策について

- (1) 今回の新型インフルエンザに対する医療体制について、どのように振り返りを行っていく考えなのか。
- (2) 医療体制において、どのような課題があったのか。
- (3) 新型インフルエンザに医療機関全体で対応していくためには、市としてどのような対応が必要と考えているのか。
- (要望) さまざまな課題に対して、関係する医師会や医療機関と協議を進めて解決し、市民の安全安心につながるよう前向きに取り組まれることを要望します。

4 自殺対策事業について

- (1) 本市の自殺対策について、これまでの主な取組と課題について伺いたい。

- (2) 「自殺に関する市民意識調査」の具体的内容について伺いたい。
- (3) 横浜市庁内自殺対策連絡会議を設置したことによりどのような取り組みが行われているか。
- (4) 今後、自殺対策における指針等の策定についてどう考えているか。
- (要望) 早期に自殺対策を推進する指針を策定し、市役所・市民が目的意識を共有し、自殺を予防できるような対策をしっかりと進めていただくよう要望します。

5 福祉人材確保事業について

- (1) 福祉人材に関する施策をどのように盛り込んだのか、予算の基本的な考え方について伺いたい。
- (2) 対象者の状況に応じて資格取得への支援が必要だと考えるが、どのような支援を行っていくのか。
- (3) 介護の職場や介護の仕事を正しく理解してもらい、イメージアップを図るための取組をどのように進めていくのか。
- (4) 小・中学校の生徒や教員に福祉への理解を深めてもらうため、どのような取組を行っているのか。
- (要望) 高齢者の増加に伴い、介護の仕事を担う人材もますます必要になるので、介護の仕事を目指す方を増やすための取組を、さらに進めるよう要望します。

6 高齢者を囲む地域福祉事業について

- (1) 高齢者を囲む地域福祉事業について、対象となっている浴場数、予算額及び利用者数の直近3年の推移について伺いたい。
- (2) 利用実態や利用意向を把握するため、利用者への調査を実施すべきと思うかどうか。
- (3) 高齢者が利用できる回数を増やしていく考えはあるのか。
- (4) 今後は様々な社会資源を活用して、高齢者の健康づくりや介護予防に取り組むべきと考えるがどうか。

5 関 勝 則 委 員 (自 民 党)

1 一人暮らし世帯等安心生活支援モデル事業について

- (1) 一人暮らし世帯等安心生活支援モデル事業の趣旨は何か。
- (2) 2 か所のモデル地区をどのように選んだのか。
- (3) モデル地区では、これまでどのような活動が行われていたのか。
- (4) モデル地区における今後の具体的な取組の内容について伺いたい。
- (5) モデル事業で得られる結果をどのように活用していくのか。

2 産科・周産期医療の充実について

- (1) これまでの産科病床整備のための取組と実績について伺いたい。
- (2) 22年度予算案における産科病床整備のための取組について伺いたい。
- (3) 市内のNICU病床の状況及び整備目標について伺いたい。
- (4) 22年度予算案におけるNICU増加に向けた取組について伺いたい。
- (5) 周産期救急病院当直体制強化事業の内容について伺いたい。
- (要望) 産科・周産期医療を取り巻く環境は厳しい状況にあるので、引き続き必要な施策や支援を強化し、産科・周産期医療の確保・充実に向けた取組をお願いします。

3 生活保護受給者に対する就労支援について

- (1) 本市では、生活保護受給者の就労に向けて、どのような取組を行っているのか。
- (2) 就労支援専門員は具体的にどのような支援を行っているのか。
- (3) 21年度のこれまでの就労支援専門員による支援の実績について伺いたい。
- (4) 22年度に向けて、本市としてさらに就労支援の取組を強化することを考えているのか。

4 市営墓地の管理運営事業について

- (1) 20年度から開始した既存3墓地の管理料の徴収実績について伺いたい。
- (2) 徴収された管理料で、どのような墓地利用者サービスを実施したのか伺いたい。
- (3) 現在の管理料算定は、どのような考え方で行っているのか、また、使用区画の面積に合わせた管理料算定は考えられないのか。
- (4) 未使用区画整理事業とはどのようなものなのか。

6 飯田助尚委員（民主党）

1 救急医療体制について

- (1) 特に医師不足が深刻な小児救急医療について、本市のこれまでの取組とその効果について伺いたい。
- (2) 小児救急拠点病院に対する、国による財政支援の適用状況について伺いたい。
- (3) 本市における輪番制事業の現状と課題について伺いたい。
- (4) 二次救急拠点病院と輪番病院の役割の違い、他都市での二次救急拠点病院の整備状況について伺いたい。
- (5) 二次救急拠点病院に対する、国による財政支援の適用状況について伺いたい。
- (6) 今後、横浜発の取組とその効果を国に情報発信することについて伺いたい。
- (要望) 救急医療体制の充実強化は、市民が安心して生活するための最重要テーマであり、本市が全国に先立ち展開している施策を内外に P R し、引き続き市民生活の安心向上に取り組まれるよう要望します。

2 敬老特別乗車証制度の見直しについて

- (1) 敬老特別乗車証制度の課題や利用状況、費用負担の実態などを広く市民に周知すべきと考えるがどうか。
- (2) 敬老特別乗車証制度の見直しにあたっては、利用実態を正確に把握したうえで議論すべきと考えるがどうか。

3 医療的なケアを必要とする在宅の高齢者への対応について

- (1) 医療的なケアを必要とする在宅高齢者をめぐる課題は何か。
- (2) 医療的なケアを必要とする在宅高齢者やその家族が安心して生活できるよう、本市としてどのような取組を行っていくのか、また、一人暮らしの高齢者が、地域での生活を継続できるような環境づくりにどのように取り組んでいくのか、伺いたい。

(3) 在宅療養患者の増加を踏まえた、介護と医療の連携強化のための取組について伺いたい。

4 特別養護老人ホームの整備について

(1) 本市における特別養護老人ホーム整備の考え方について伺いたい。

(2) 特別養護老人ホームの整備にあたって、どのような課題があるのか伺います。

(3) 地域偏在や医療的ケアへの対応をどのように行っていくのか伺います。

5 特別養護老人ホームの処遇改善について

(1) 特別養護老人ホームの介護職員の処遇を改善するために、本市としてはどのような取組を行っていくのか。

(2) 特別養護老人ホームを対象とした処遇改善事業は、22年度までの措置とのことですが、今後も引き続き職員の処遇改善に取り組む必要があると考えるがどうか。

(要望) 施設での介護が必要な高齢者が増加する中で、介護従事者の安定的な確保や定着は大きな課題であるため、引き続き特別養護老人ホーム職員の処遇改善への支援を行うなど重点的な取組を要望します。

6 介護サービス自己負担助成における施設居住費助成について

(1) 施設居住費助成の内容や要件について伺いたい。

(2) 施設居住費助成を実施するに至った考え方について伺いたい。

(3) 施設居住費について、低所得者の自己負担軽減を国に要望していくべきと考えるがどうか。

7 将来にわたるあんしん施策について

(1) 後見的支援推進事業ではどのような事業を実施するのか。

(2) 成年後見制度と後見的支援の仕組みはどのように関わっていくのか。

8 障害者就労支援事業について

- (1) 企業等からの受注増加や、自主製品の販路拡大への取組について伺いたい。
- (2) 福祉的就労への支援に対する今後の方向性について伺いたい。

9 自殺対策について

- (1) 交通事故対策や防犯対策から自殺対策に参考となるものはないか伺いたい。
- (2) 自殺に至る原因について伺いたい。
- (3) 自殺未遂者再発防止事業の内容について伺いたい。
- (4) 自殺未遂者再発防止事業を今後どのようにつなげていくかを伺いたい。

7 市 野 太 郎 委 員 (民 主 党)

1 発達障害者支援体制整備について

- (1) 具体的にはどのような取組を行うことを考えているのか。
- (2) 今回の取組により、発達障害のある方やそのご家族の生活にどのような効果があると考えているのか。
- (3) 相談体制の構築と同時に、具体的な支援を行う仕組みづくりも併せて進めていくべきだと思うがどうか。

2 障害者移動支援事業関連について

- (1) 22年度予算案では、障害者移動支援事業が大幅な増額となっているが、その内容はどのようなものか。
- (2) 公共交通機関を使いにくい重度障害者の方にとって、タクシー料金助成事業は有効な施策であるが、今回の見直しのポイントは何か。
- (3) タクシー料金助成事業の今回の見直しで、想定される効果はどのようなものか。
- (4) 移動支援再構築プロジェクトは、22年度も継続すると聞いているが、2年間の検討を通してどのような目標を掲げているのか、また、2年目の検討に向けての意気込みを伺いたい。
- (要望) 障害のある皆さんが切実に願っている「いつでも、誰でも、どこへでも」が達成できるよう、移動支援施策の充実にさらに取り組むことを要望します。

3 生活保護について

- (1) 生活保護世帯が急増している要因をどう分析しているのか。
- (2) 生活保護の動向について、今後どのような見通しをもっているのか。
- (3) 生活保護費が1,000億円を下回することは難しいと考えているのか。
- (4) 増加する生活保護世帯に対して、本市としてどのように取り組んできたのか。
- (5) 本市の自立支援の取組として、何か新たな取組を考えているのか。

- (6)本市の取組を進めるにあたり、現場の意見をどのように取り入れているのか。
- (7)生活保護世帯の急増に伴い、22年度のケースワーカー等の配置はどうなっているのか。
- (8)ケースワーカー等の増員配置によってどのような効果が期待できるのか。
- (9)ケースワーカーの質の向上をどのように図っているのか。
- (10)生活保護費が1,000億円を超える事態に対しての見解を伺いたい。
- (11)生活保護制度自体は国の制度であるが、国に対して積極的に意見・要望を述べていくべきだと思うがどうか。
- (要望)生活保護制度がよりよい制度となるためには、現場の実情をよく見て生の声を国に届けることが必要であり、こうした観点からの積極的な取組を要望します。

4 介護保険福祉用具貸与について

- (1)介護保険の福祉用具のレンタルの内容、件数及び費用について伺いたい。
- (2)福祉用具のレンタル価格は事業者が決めており、高い価格を設定する事業者があることについて、どのように認識しているのか。
- (3)高い価格を設定している事業者に対して、市としてどのように対応しているのか。
- (4)改善に向け、例えば、事業者にホームページでのレンタル価格の公表を義務付けることや、福祉用具の種類ごとに給付の上限額を定めることなどを、国へ働きかけることが必要と思うがどうか。

8 齊藤伸一委員（公明党）

1 高齢者施策について

- (1) 本市における、今後の小規模多機能型居宅介護サービス事業所の整備状況と今後の整備の進め方について伺いたい。
- (2) 介護支援ボランティアポイント事業
 - ア 実施後5か月が経過しましたが、ボランティアと受入施設の評価はどうか、また、この事業を実施していく中で、見えてきた課題は何か。
 - イ より多くの高齢者が介護のボランティアに参加できるよう、活動の場を広げるなどの環境づくりが必要と考えるが、22年度はどのように取り組んでいくのか。
- (3) 介護の仕事の社会的評価の向上に向けて、本市では今後どのように取り組んでいくのか。
- (4) 女性にとって働きやすい職場環境の整備が必要だと考えるが、どのような取組を進めていくのか。
- (5) 緊急ショートステイ床確保事業について、19～21年度3か年の利用率の実績及び22年度の主な拡充内容はどのようなものか。
- (6) 認知症コールセンター設置の目的や具体的な事業内容はどのようになっているのか。
- (7) 特別養護老人ホーム等施設への入所関連
 - ア 介護が必要となり自宅を離れることになった場合、本人の希望により、できる限り夫婦そろって暮らし続けられる居住施設や介護施設等の確保、仕組みづくりが必要と考えるがどうか。
 - イ 特別養護老人ホームなど、施設に入所されている方に対して広報よこはまや選挙公報など地域の情報が確実に届く仕組みを作る必要があると考えるがどうか。
- (8) 地域福祉・交流拠点モデル事業を実施するねらいについて伺いたい。

- (9) 一人暮らしなど地域で孤立しがちな高齢者への生活支援を、今後どのように進めていく考えなのか。
- (10) 高齢者等買い物サポート事業の概要及び事業の継続についてどのように考えているのか。
- (11) 今後の超高齢社会に対応するため、福祉サービスの充実に加え、住環境や都市基盤の整備などを、全市的に進める必要があると考えるがどうか。

2 災害時における要援護者の避難支援について

- (1) 平常時における要援護者情報の地域への提供方法について伺いたい。
- (2) 同意方式における同意の割合について伺いたい。
- (3) 発災時の不同意の方も含めた要援護者の避難支援に対する基本的な考え方について伺いたい。

3 将来にわたるあんしん施策について

- (1) 精神障害者の家族支援ではどのような事業を実施するのか。
- (2) この事業は何を狙って実施するのか。
- (3) 「将来にわたるあんしん施策」の地域の担い手には具体的にどのような人を想定しているのか
- (4) 「将来にわたるあんしん施策」の担い手を増やすためにどのような工夫をするのか。
- (5) 「将来にわたるあんしん施策」を展開することでどのような効果が得られると考えているか。
- (6) 「将来にわたるあんしん施策」を今後、どのように広報し、ご利用いただていくのか。

4 音声コードの普及について

- (1) 健康福祉局として、送付文書に音声コードを付けるなどの取組を行っていく考えはないか。
- (2) 本市においても、視覚障害のある方々の団体への支援の取組を行う考えはな

いか。

(3) 今後、市全体の取組として、音声コードの普及を進めていく考えはないか。

5 生活困窮者に対する施策について

(1) 本市におけるワンストップ・サービスデイの実績について伺いたい。

(2) この間のワンストップ・サービスデイの取組をどのように評価しているのか。

(3) 第2のセーフティーネットである各制度が、相談者にとって利用しやすい制度となるよう、各機関の連携に向けて、今後どのように取り組んでいくのか。

(4) 生活保護ケースワーカーの年齢別構成はどうなっているのか、年齢や経験年数を考慮した配置のあり方についてどのように考えているのか。

6 国民健康保険について

(1) 国民健康保険証の交付方法について

ア 国民健康保険への新規の加入数の傾向はどうなっているか。

また、新規加入者には、どのような方法で保険証を交付しているのか。

イ 区役所からは発送し、あて先に届いているはずなのに、ご本人は受け取っていないという申し出数はどのくらいあるのか。

また、保険証は、他の政令市ではどのような方法で交付しているのか。

ウ それぞれの郵送方法のメリット、デメリットがあるが、保険証は、本人の手元に、より安全で確実に届く方法で送付すべきと思うがどうか。

(2) 国民健康保険の加入の周知について

ア 国民健康保険への加入手続きがなされないままの状態になることを防ぐためには、国民健康保険をはじめ各健康保険の運営者や企業は、より一層幅広く、かつ、わかりやすく制度周知していくことが重要と考える。

例えば、青少年に対しても、社会人になる前から、周知を図っていくことも大切だと考えるがどうか。

7 女性特有のがん対策について

- (1) 21年度の子宮がん・乳がん検診の実績について10月から12月の前年同月比について伺いたい。
- (2) この実績をどのように評価するのか、また、女性特有のがん検診推進事業の23年度以降の取組の考え方について伺いたい。
- (3) 子宮頸がん予防ワクチン接種の公費助成を行うべきと考えるかどうか。

1 将来にわたるあんしん施策について

- (1) 障害関連施設を訪問した市長の感想について、局長はどのように聞いているのか。
- (2) 「将来にわたるあんしん施策」予算案の策定を終えて、局長はどのように思っているのか。
- (3) 「将来にわたるあんしん施策」の予算案策定にあたり、どのようなことが局長の支えとなったのか。
- (4) 多機能型施設プロジェクトが目指したものと検討状況について伺いたい。
- (5) 具体的にはどのような機能を備えた拠点としていくのか。
- (6) 多機能型拠点の実施にあたり、どのような工夫をするのか。
- (7) 重症心身障害児・者の暮らしがどのように変わると考えているのか。
- (8) プロジェクトでの検討の成果を受けて、どのような考え方で移動関連の事業展開を行っていくのか。
- (9) 具体的にはどのような事業の拡充を考えているのか。
- (10) プロジェクトの2年目である22年度は、どのような検討を行っていくのか。
- (11) モデル事業として、具体的にはどのような事業を考えているのか。
- (12) 重度障害者入院時コミュニケーション支援事業は、対象者としてどのような方を想定しているのか。
- (13) 具体的には、どのような人が、どのように支援を行うことを考えているのか。
- (14) 高次脳機能障害のある方に対する支援として、具体的にどのような施策を考えているのか。
- (15) 高次脳機能障害支援センターではどのような支援を受けることができるのか。
- (16) 「将来にわたるあんしん施策」の中では、人材の確保・育成という観点でどのような取組を行うのか。
- (17) 22年度に行った合同就職説明会の成果とその評価について、また、それを受けて今後はどのように取組を強化していくのか。

- (18) 今後、必要となる事業費を確保し、「将来にわたるあんしん施策」を実施していくにあたって、どのような工夫をしていくのか。
- (19) 「将来にわたるあんしん施策」を今後も展開するにあたっての副市長の決意を伺いたい。
- (要望) この施策は在宅心身障害者手当の転換策であり、来年度以降その意識が薄らいでいつの間にか予算が減額するようでは困る。手当廃止の附帯意見に基づき、今後も質と量の確保をお願いします。

10 大 桑 正 貴 委 員 (無 所 属)

1 医療に関する情報提供・相談機能の拡充について

- (1) 救急医療情報センターと小児救急電話相談の事業内容及び実績の推移はどうなっているか。
- (2) 救急医療情報センター等でテープ対応になった件数はどうなっているか。
- (3) 救急医療情報センターと小児救急電話相談の具体的な拡充内容について伺いたい。
- (4) 情報提供・相談サービスを将来的に統合することについて、どのように考えているか。

2 障害者就労支援について

- (1) 障害者を雇用する企業を増やすための課題は何か。
- (2) 企業の障害者理解を促進させる取組について伺いたい。
- (3) 企業が障害者雇用に踏み出せる支援の取組について伺いたい。
- (4) ふれあいショップ「さんぼみち」の休止までの経過及び今後の予定について伺いたい。